

指定管理者制度導入施設の管理運営検証結果【検証シート】

2026/6/22

		管理No.	
施設の名称	山形県総合文化芸術館	指定管理者	みんなぐるやまがた
	所在地	山形県山形市双葉町1丁目2ー38	県担当課 県民文化芸術振興課 県民文化館・西口広場にぎわい創出推進室 (電話番号) (023ー630ー2903)
	指定期間	令和 7年 4月 1日 ～ 令和12年 3月31日	
	検証期間	令和 7年 4月 1日 ～ 令和 8年 3月31日	
検証項目		県(施設所管課)による評価・検証	
1 仕様書等に沿った管理・運営業務の履行状況			
① 管理・運営業務の履行状況	■年間来館者数894,177人(前年度比115%、文化機能117%・魅力発信モール111%)、大ホール稼働率:80.1%(前年度比107%)、みんなぐるメーパーズ登録者数22,083人(前年度比132%)。第2期事業計画書で掲げた年間来館者数100万人(令和11年度)、大ホール稼働率80%(通年)の達成に向けて順調なスタートとなった。 ■令和3年7月から令和7年7月の約4年間に亘り、大ホール早期利用料金の誤請求・誤徴収が判明(74個人・団体(延べ174件)に対し、合計1,609千円の過徴収)。8月よりお詫びと返金対応を開始し、10月にすべての返金対応を完了(最終返金額1,706千円 ※遅延損害金を含む)。事案判明後、組織内ガバナンスの見直しと強化、情報共有・情報開示の徹底など、再発防止策を講じた。利用者の皆様ならびに関係者の皆様に多大なるご迷惑をお掛けしたことについて、お詫びと返金対応の完了報告、並びに改善策をHPIに掲載した。 ■開館5周年を華やかに彩る鑑賞事業ラインナップを編成するとともに、新たなコンテンツホルダーとの関係を構築(ビルボード・ジャパン、エイベックス・クラシック・インターナショナルなど)。鑑賞事業の公演ジャンルを多様化し、出演された著名アーティストの評判も得ることで、「やまぎん県民ホール プランド」を磨き上げる水準の鑑賞事業継続を支える基盤拡充を図った。 ■スタジオ2と練習室3を会場に約1か月間の展示企画「リト@葉っぱ切り絵展」を実施。企画事業では初となる長期間の有料展示の実施により、施設全体の来館者数を押し上げた。また、諸室を活用した展示利用モデルを可視化し、施設の多様な使い方を多くの方に示すことで、貸館利用促進にも繋げる狙いとした。 ■イベント広場利用者数318,408人(前年度比154.7%)を記録。貸館・企画事業の双方で定期開催のリピーター利用が定着し、駅西口エリアの常態的な賑わい創出起点として地域に浸透。(貸館「Yamagata CHRISTMAS Market」80,800人、企画事業「山形おいも万博」5,711人など) ■山形県および山形県芸術文化協会との協働と連携を深め、県内の文化芸術振興の未来につながる創造・育成事業について、制度面・財源面の整理を進め、事業の持続可能性を高める取り組みを進めた。(「山形県トップコンサート」の入場有料化および指定席制導入による収支改善と当日運営負担軽減、「こども郷土芸能芸術まつり」共催事業化に伴う新たな財源確保) ■託児室利用者数626名(前年度比102%)で安定した利用が定着。公益社団法人やまがた森林と緑の推進機構「令和7年度緑の募金事業」の交付認定を受け、山形県産木材を使用した幼児用玩具購入とやまがた木育絵本「もりはすこいなあ」を使用した絵本読み聞かせイベントを実施した。託児室を活用した「やまがた木育」普及活動を展開した。 ■「クマ出没警報」の発令期間延長を受け、危機管理対応マニュアルに「クマが出没した場合」の対応マニュアルを新たに追加。クマ撃退スプレーの購入やイベント広場での飲食催事主催者へのクマ対策依頼など、万一の事態を想定した体制を整備した。 ■ベットの汚物放置、無断駐輪、喫煙などの迷惑行為抑止として、敷地内の目に留まりやすい場所に注意喚起案内を増設。警備スタッフが注意しやすい環境を整えるとともに、利用者と管理者が協力しながら、公共施設の衛生・安全・安心を維持していく風土醸成を図った。	評 価 	

【評価指標】

- A : 仕様書等に定める水準を上回っている等、優れた対応がなされている。
B : 概ね適正に実施されている。
C : 部分的に改善等を要するところがあるが、既に対応済み又は対応見込みである。
D : 仕様書等に定める水準に達しておらず、大いに改善を行う必要がある。

注) 検証項目については、施設の特性等に応じて適宜追加することができるものであること。